

2011 年 1 月 4 日

報 道 各 位

JX 日鉱日石金属株式会社

当社社長の「2011 年 新年挨拶」について

当社社長 岡田昌徳の「2011 年 新年挨拶」の要旨は次のとおりです。

JX グループ誕生という大きな経営変革の真只中に身を置きつつ、かねて明確にしている戦略に基づき、事業を進展させてきた。2010 年上期の業績は所期の目標を上回り、通期においても、中計で掲げた目標を上積みできる見通しにある。

当社が真に目指すところは、JX グループが 2015 年度の達成目標として掲げている連結経常利益 5 千億円の三分の一強に相当する、2 千億円を上げ得る収益基盤を早期に構築することである。当社には、明日の隆盛に繋がるプロジェクトやシーズが目白押しである。それらを確実に実現してこそ、「世界の非鉄企業と覇を競うグローバルカンパニー」への道が開けてくる。

今年の主な事業課題は次のとおりである。

カセロネス銅・モリブデン鉱床開発プロジェクトは、2013 年の生産開始に向け、順調に準備を進めている。日鉱式塩化法の開発については、「実証化」から「最適化」の段階に移行した。高品位鉱床が少なくなっている今日、極めて画期的かつ有望な新技術であり、早期に商業化を実現させたい。

製錬事業では、銅の販売プレミアムのアップ、硫酸・スラグの採算性確保、鉱石購入条件の改善、LS-Nikko とのシナジーの徹底追求等々、多面的に改善策を講じていく。

環境リサイクル事業では、HMC 工場の操業が軌道に乗り始めた。さらに、海外での集荷力を強化するとともに、廃電池リサイクルの実証化試験、難処理産業廃棄物の処理、石油系廃触媒からの有価金属回収など、新規事業にも積極的に取り組んでいく。

電材加工事業については、市場ニーズの変化に応じた Product Mix の転換、将来を見据えた開発製品の量産化に努めている。特に、リチウムイオン電池用正極材の本格事業化に向けてのプロジェクトチームを立ち上げた。

「安全の徹底」「環境保全」そして「コンプライアンスの徹底」を、企業活動の全てに優先させていく。また、これらを通して会社の品格・良心（社格）の更なる醸成にも努めていく。

以 上